

Mémoires 2020

天皇賞(春)



第161回天皇賞(春)(GI)優勝馬フィエールマン



平成最後の王者が、令和でも戴冠



▲レース途中からキセキ(帽色・黄・左)が引っ張り、フィエールマン(帽色・桃)は中団で追走。



▲フィエールマンは史上5頭目の天皇賞(春)連覇を達成。

休み明けも大外枠も克服して、史上5頭目の連覇が達成された。

前年の覇者フィエールマンは、これが有馬記念4着以来、約4か月半ぶりの実戦。手塚貴久調教師が「この子のパフォーマンスを引き出すためには直接向かうのがいいと思いました」と説明したように、これまでも菊花賞を約3か月半、前年の天皇賞(春)も約3か月と、間隔を開けたローテーションでビッグタイトルを制してきた。とはいえ、これより長い間隔で天皇賞(春)を勝利した馬は過去には1941年のマルタケしかいない。それは大きな挑戦だった。

もうひとつ、フィエールマンの前には14頭立ての14番、「大外枠」の壁も立ちはだかっていた。天皇賞(春)の大外枠は2008年のアドマイヤジュピタを最後に11年間、勝ち馬どころか掲示板に載る馬すら1頭も出ていなかったのだ。

それでもファンはフィエールマンを信じ、1番人気に支持した。

ゲートが開くと、C.ルメール騎手は五分のスタートを切ったフィエールマンをあえて下げ、1周目スタンド前で中団の馬群に潜り込んだ。前方では、逃げたダンビュライトをキセキが交わって先頭へ。武豊騎手と新コンビを組む3番人気のキセキが、自分のペースでレースを進めることを主張する。

直線、ずっと好位の内で息を殺していた2番人気のユーキャンスマイルが、一気に内ラチ沿いを突く。外からは3番手を進んできたスティッフエリオ。2頭が内と外から抜け出してキセキに襲いかかる。そして、そのさらに外から鋭く伸びてきたのがフィエールマンだった。

スティッフエリオに並び、馬体を併せる。11番人気の伏兵の懸命な抵抗は、ルメール騎手も「ゴールまでファイトしなければならなかった」と振り返るほど激しいものだったが、しかし王者はやっぱり強かった。

天皇賞(春)連覇はメジロマックイン、テイエムオペラオー、フェノーメノ、キタサンブラックに次ぐ史上5頭目の偉業。「平成の最後」と「令和の最初」を繋いだのは、現役最強ステイヤーの底力だった。

第161回天皇賞(春)(GI)

5/3 京都競馬場 3200m(芝・右・外) 曇・良 14頭

着順	馬名	性齢	斤量	騎手	調教師	タイム/着差	人気	通過順位
1	フィエールマン	牡5	58	C.ルメール	手塚 貴久	3:16.5	①	⑧⑧⑦⑦
2	スティッフエリオ	牡6	58	北村 友一	音無 秀孝	ハナ	⑪	③③③③
3	ミッキースワロー	牡6	58	横山 典弘	菊沢 隆徳	2 1/2	④	⑨⑩⑤④
4	ユーキャンスマイル	牡5	58	浜中 俊	友道 康夫	クビ	②	⑥⑥⑦⑥
5	トーセンカンピーナ	牡4	58	藤岡 康太	角居 勝彦	1 3/4	⑦	⑭⑭⑦⑧
6	キセキ	牡6	58	武 豊	角居 勝彦	1/2	③	①①①①
7	モズベッコ	牡4	58	池添 謙一	森田 直行	クビ	⑤	④④④④
8	メイショウテンゲン	牡4	58	幸 英明	池添 兼雄	1/2	⑩	⑫⑫⑤⑧
9	ダンビュライト	騾6	58	松若 風馬	音無 秀孝	3/4	⑧	②②②②
10	エタリオウ	牡5	58	川田 将雅	友道 康夫	2	⑥	⑨⑨⑩⑩
11	メロディーレーン	牝4	56	岩田 望来	森田 直行	1 3/4	⑬	⑬⑬⑭⑭
12	ミライヘノツバサ	牡7	58	木幡 巧也	伊藤 大士	3	⑫	⑪⑪⑫⑪
13	ハッピーグリーン	牡5	58	和田 竜二	森 秀行	大差	⑭	⑤⑤⑦⑭
14	シルヴァンシャー	牡5	58	M.デムーロ	池江 泰寿	1 1/4	⑨	⑥⑦⑫⑬

単勝 ⑬200円 複勝 ⑭130円 ⑥830円 ⑤290円 枠連(4-8)1,110円
馬連 ⑥-⑭5,770円 馬単 ⑭-⑥7,410円 ワイド ⑥-⑭1,790円 ⑤-⑭510円 ⑤-⑥5,160円
3連複 ⑤-⑥-⑭13,500円 3連単 ⑭-⑥-⑤55,200円

ハロンタイム 13.2-12.4-12.4-12.5-12.5-12.0-11.6-12.5-12.1-12.2-12.7-12.5-11.9-11.9-11.9-12.2

通過タイム 600m₁38.0-800m₁50.5-1000m₁1:03.0-1200m₁1:15.0-1400m₁1:26.6-1600m₁1:39.1-1800m₁1:51.2-2000m₁2:03.4-2200m₁2:16.1-2400m₁2:28.6-2600m₁2:40.5-2800m₁2:52.4-3000m₁3:04.3

優勝馬 フィエールマン

2015.1.20生 父ディープインパクト 母リュノドル 母の父Green Tune
安平・ノーザンファーム生産 馬主:(有)サンデーレーシング